

拝啓

厳冬の候、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。2月号をお届けいたします。

1月28日(土)本誌の読者の一人佐藤昭夫さんと、山中湖の奥にある石割山(1413m)に登山してきました。まれに見るような快晴の日で、一日中くっきりと見える富士山を眺めながら、すばらしい登山を楽しむことができました。登山後、ふもとの石割の湯で、たまった疲れを落としてきました。

さて、今月から、カウマン夫人の「山頂をめざして」から引用いたします。カウマン夫人の本は、この20年来、「荒野の泉」をはじめとして、出版されている本は、ほとんど読んでいました。くわしい略歴が出ている本がなく、カウマン夫人とは、どんな人なのかなといつも思っていました。

今回の引用を始めるに当たって、カウマン夫人の伝記を2冊読みました。一冊は、「幻は生きつづける」(B・H・ピアソン著)、一冊は「ホーリネスの流れ」(山口幸子著)で、カウマン夫人の略歴はエンカウンターに記したとおりです。

いろいろなことを発見して驚きました。

シカゴのムーディー聖書学院に学んだ中田重治との縁で、来日したこと。小西先生の先生のモーク先生も、ムーディー聖書学院に学ばれましたから、日本で、モーク先生とカウマン夫人は、知り合いだったと思われそうです。

日本に18年滞在し、中田重治らとともに伝道し、東洋宣教会を設立し、ホーリネス教会は、その東洋宣教会から生まれていること。

大正7年にアメリカに帰国後は、東洋宣教会はアメリカに本部がおかれ、夫チャールズの没後、カウマン夫人が20年間も総理を勤めていること。東洋宣教会は、世界中の国々に、クルーセードを送り、世界宣教をしており、カウマン夫人は、ピリー・グラハムのような、大伝道者であったこと。

内村鑑三が、中田重治らとともに、再臨運動を行ったのは、大正7、8年のことであり、カウマン夫人とも関係がありそうなこと。

小西先生が、小石川福音教会での中田重治の特別伝道を聞いて、聖霊を受け、洗礼を受けたのも、大正7年であり、これも関係がありそうなこと。

高円寺東教会におられた今井寿先生(やすらぎ教会牧師)は、昭和5年中田重治の聖書学院に入学され、中田重治に学んだ方であること。

以上のような色々なことがわかり、カウマン夫人は大きな働きをされた大伝道者であること、内村鑑三先生、小西先生にも、間接的に影響を与えられた方であると思われることがわかりました。ですから、カウマン夫人の本に特別にひかれるのでしょうか。

もうしばらくで、春です、この厳しい寒さの時期を、体に注意して乗り過しましょう。

敬具

平成18年1月29日

山口周三

エンカウンターの読者各位